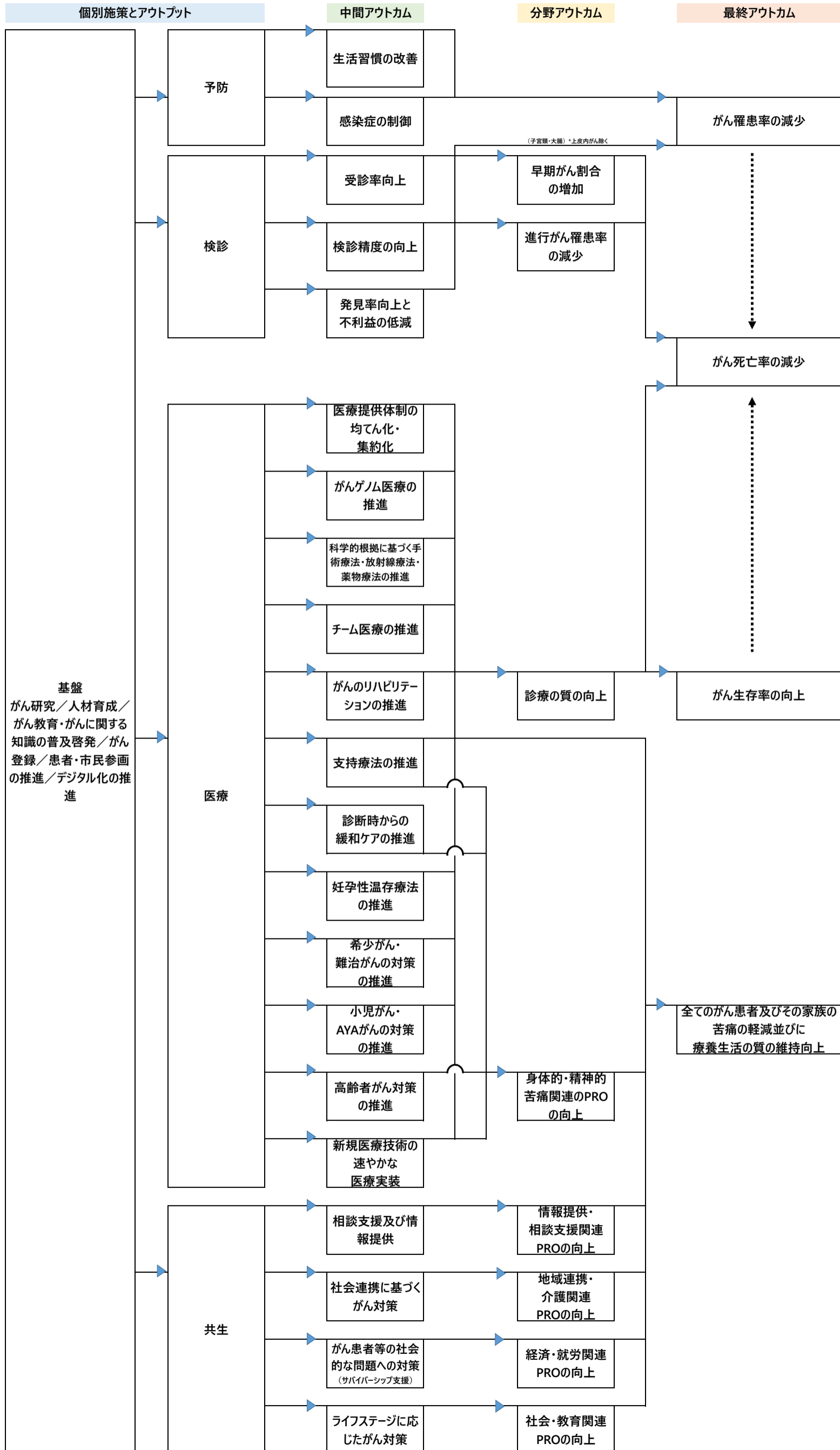


第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：基本ロジックモデル

第86回がん対策推進協議会 資料3
令和4年11月30日

11月30日時点版（未定稿）



第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#2 がん予防＜がんの2次予防（がん検診）＞

11月30日時点版（未定稿）

① 受診率対策について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
-	がん検診受診率をより正確かつ精緻に、個人単位で把握できるよう検討	施策を検討する段階のため、指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-
1-1	科学的かつ効果的な受診勧奨策の推進、利便性向上	受診勧奨実施市町村* 数	新	検討中
1-2	がん検診の意義・必要性についての正しい理解の普及啓発	普及啓発キャンペーンの実施状況（実施都道府県数）（仮）	新	検討中
-	感染症まん延時等で提供縮小した後も速やかに検診行動を回復できる準備等の対応検討	施策を検討する段階のため、指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-
1-3	職域での実施状況の継続的な把握に向けた課題の整理	指針に基づく検診の実施率	新	検討中（保険者データヘルス全数調査または厚労科研）

*特別区を含む。以下、同じ。

② がん検診の精度管理等について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-4	レセプトやがん登録情報の活用による精度管理の技術的支援	市町村への支援数	新	検討中（厚生労働科学研究（仮））
1-5	精密検査受診率の低い市町村に対する都道府県による指導・助言	実施都道府県数	新	都道府県用チェックリスト実施率調査
1-6	職域における精度管理向上のための保険者への技術的支援	支援保険者数	新	検討中（厚生労働科学研究（仮））
1-7	市町村での精密検査実施医療機関リストの提供等のわかりやすい情報提供	実施市町村数	新	検討中（市区町村におけるがん検診の実施状況調査）

③ 科学的根拠に基づくがん検診の実施について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
-	諸外国との比較調査を実施する仕組みの検討	指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-
1-8	対象年齢・検診間隔を含めた指針に基づくがん検診の遵守（指針に基づくかないがん検診の中	遵守市町村数	新	市区町村におけるがん検診の実施状況調査
1-9	止）	中止市町村数	新	市区町村におけるがん検診の実施状況調査
-	対策型検診の項目変更に係るプロセスの明確化についての検討	指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-
-	指針に基づかないがん検診に係る効果検証の方法について検討	指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-
-	組織型検診に向けた課題の整理と対応の検討	指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-1	受診率の向上	検診受診率	1031	国民生活基礎調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-1	検診がん種の早期がん割合の増加	がん種別早期がん割合	新	全国がん登録
3-2	検診がん種の進行がん罹患率の減少	がん種別進行がん罹患率	新	全国がん登録

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-1	検診がん種の死亡率減少	がん種別年齢調整死亡率	1002	人口動態統計
4-2	がん罹患率（子宮頸・大腸）*；減少 ※	がん種別年齢調整罹患率	1004	全国がん登録

*；上皮内がん除く。
※がん検診により子宮頸部・大腸の前がん病変を早期発見して治療介入すれば、子宮頸がん・大腸がんの罹患率が減少する。

凡例：
・#： ロジックモデル内の便宜上の通し番号 ※全体確定後、改めて付番。
・3期： 第3期中間評価指標で採用されていた指標は当時の番号。新規の場合、「新」。
・データソース： 用いる調査等。既存のデータベースでは情報が取得できない場合、「検討中」と記載。具体的には、既存調査の見直しや厚労科研等での対応を検討している。想定される調査について（ ）内に記載。

医療提供全般

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-1	国及び都道府県による、地域特性に応じた拠点病院等の役割分担を踏まえた集約化の推進	役割分担に関する議論が行われている都道府県の数	新	現況報告
1-2	国及び都道府県による、地域の実情に応じた危機対応時の連携体制を整備する取組の推進（平時から）	BCPに関する議論が行われている都道府県の数 (参考) BCPを整備している病院の数	新	現況報告
1-4	がん診療連携拠点病院等、小児がん拠点病院等、がんゲノム医療中核拠点病院等の相互連携についての検討推進	都道府県協議会に小児がん拠点病院等が参加している都道府県の数※	新	現況報告

※ゲノム拠点は自動的に連携される。

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-1	医療機関の機能分担を通じた質の高い安心な医療の効率的な提供	専門的な医療を受けられたと思う患者の割合	新	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-1	全国的ながん診療の質の向上・均てん化	がんの診断・治療全体の総合的評価（平均点または評価が高い割合）	2005	患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-1	がんの死亡率の減少	がんの年齢調整死亡率	2001	人口動態統計
4-2	がんの生存率の向上	がん種別5年生存率	2002	全国がん登録／院内がん登録
4-3	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	患者体験調査

病理診断

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-5	質の高い病理診断や細胞診断を提供するための体制の整備	常勤の病理専門医が1名以上配置されている拠点病院等の割合	新	現況報告

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-2	タイムリーな病理診断	初診時から確定診断までの1ヶ月未満の人の割合	新	検討中（患者体験調査or院内がん登録+DPCorNDB（仮））

第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#4. がん医療提供体制等＜がんゲノム医療＞

11月30日時点版（未定稿）

がんゲノム医療

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-1	がんゲノム医療中核病院を中心としたゲノム医療提供取組の継続	がんゲノム医療中核拠点病院等の数	2013	現況報告（がんゲノム）
1-2		遺伝医学に関する専門的な知識及び技能を有する医師数（臨床遺伝専門医）*	2015	現況報告（がんゲノム）
1-3		遺伝医学に関する専門的な遺伝カウンセリング技術を有する者の数（認定遺伝カウンセラー）*	2016	現況報告（がんゲノム）
1-4		遺伝カウンセリング等を行う部門につないだりする者の数（がんゲノム医療コーディネーター）*	2017	現況報告（がんゲノム）
1-5		薬物療法に専門的な知識及び技能を有する医師の数*	2018	現況報告（がんゲノム）

*がんゲノム中核拠点病院における人員数

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-1	がんゲノム医療へのアクセシビリティの向上	がんゲノム情報管理センターに登録された患者数	2019	C-CAT
2-2		がんゲノム医療拠点病院等において遺伝性腫瘍に関する遺伝カウンセリングを実施した患者数	2018	現況報告（がんゲノム）
2-3		がん遺伝子パネル検査を実施した患者のうち、エキスパートパネルで推奨された薬剤が投与された患者の割合	新	C-CAT
2-4		ゲノム情報を活用したがん医療についてがん患者が知っていると感じる割合	2020	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-1	全国的ながん診療の質の向上・均てん化	がんの診断・治療全体の総合的評価（平均点または評価が高い割合）	2005	患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-1	がんの死亡率の減少	がんの年齢調整死亡率	2001	人口動態統計
4-2	がんの生存率の向上	がん種別5年生存率	2002	全国がん登録／院内がん登録
4-3	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	患者体験調査

手術療法

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-1	科学的根拠に基づき、高度な手術療法の提供についても、医療機関間の役割分担の明確化・連携体制の整備等の取組推進	がんの鏡視下手術の割合	2031	現況報告
1-2	厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)へ登録している拠点病院等の割合		新	現況報告

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-1	安全かつタイムリーな手術治療の実施	拠点病院における5大がん患者の術後30日以内の死亡率	2032	検討中（院内がん登録+DPCを利用（仮））
2-2		診断から手術までの日数	新	検討中（院内がん登録+DPCを利用（仮））

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-1	全国的ながん診療の質の向上・均てん化	がんの診断・治療全体の総合的評価（平均点または評価が高い割合）	2005	患者体験調査
3-2	（標準的な）診断・医療の進歩	一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと思う患者の割合	2003	患者体験調査
3-3	治療選択についての情報提供の充実（必要な情報へのアクセス改善）	治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合	新	患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-1	がんの死亡率の減少	がんの年齢調整死亡率	2001	人口動態統計
4-2	がんの生存率の向上	がん種別5年生存率	2002	全国がん登録／院内がん登録
4-3	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	患者体験調査

放射線療法

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-3	科学的根拠に基づく高度な放射線療法について、医療機関間の役割分担の明確化・連携体制の整備等の取組推進	IMRT加算をとっている拠点病院の割合	2035	院内がん登録+DPC、現況報告
1-4		放射線治療専門医が常勤で配置されている拠点病院の割合	2036	現況報告
1-5		診療放射線技師が2名以上配置されている拠点病院等の割合	新	現況報告
1-6	関係学会等と連携し、粒子線治療等の高度かつ特殊な放射線療法の提供体制のあり方検討	あり方の検討段階のため、指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-3	必要な患者に対する、最適な放射線治療のタイムリーかつ安全な実施	放射線治療関連QI	新	検討中
2-4		手術から放射線治療開始までの期間	新	検討中

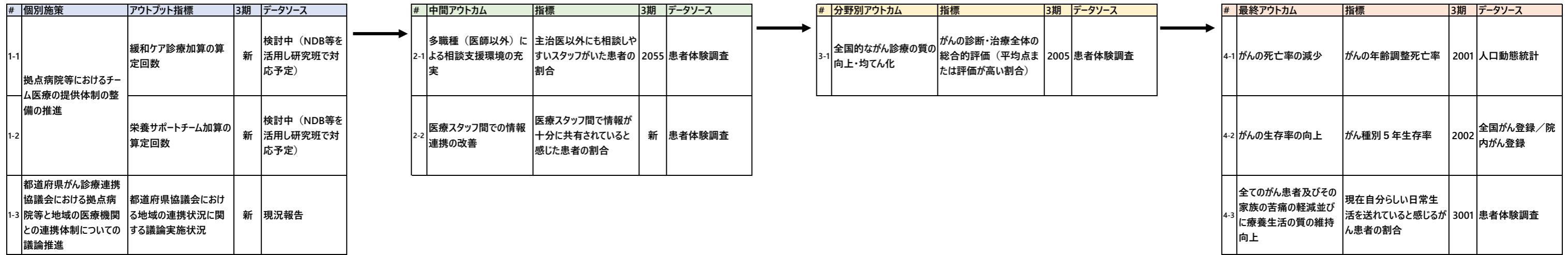
薬物療法

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-7	科学的根拠に基づく高度な薬物療法が安全に実施できるような、医療機関間の役割分担の明確化、連携体制の整備等の取組推進	がん専門薬剤師またはがん薬物療法認定薬剤師が配置されている拠点病院の割合	2040	現況報告
1-8		1拠点病院あたりの、がん薬物療法専門医数	2041	現況報告
1-9		免疫関連有害事象を含む有害事象に対して、他診療科や他病院と連携等して対応している拠点病院等の割合	新	現況報告
1-10	（国民が薬物療法等に関する正しい情報を取得できるよう）科学的根拠に基づく治療法に関する情報提供及び普及啓発	自施設で対応できるがんについて提供可能な診療内容を病院HP等でわかりやすく広報している拠点病院等の割合	新	現況報告

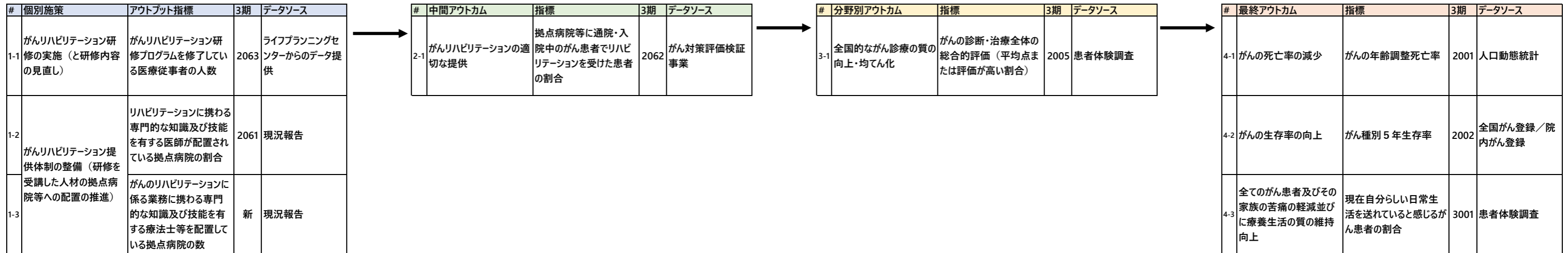
#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-5	最新の知見に基づく適切な化学療法のタイムリー・安全な実施	化学療法/薬物療法関連QI	2021	検討中
2-6		手術から化学療法開始までの期間	新	検討中（院内がん登録+DPC（仮））
2-7	国民が免疫療法に関する正しい情報を取得	科学的根拠を有する免疫療法について国民が必要な情報を取得できている割合	2043	世論調査

第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#6 がん医療＜チーム医療の推進＞

11月30日時点版（未定稿）

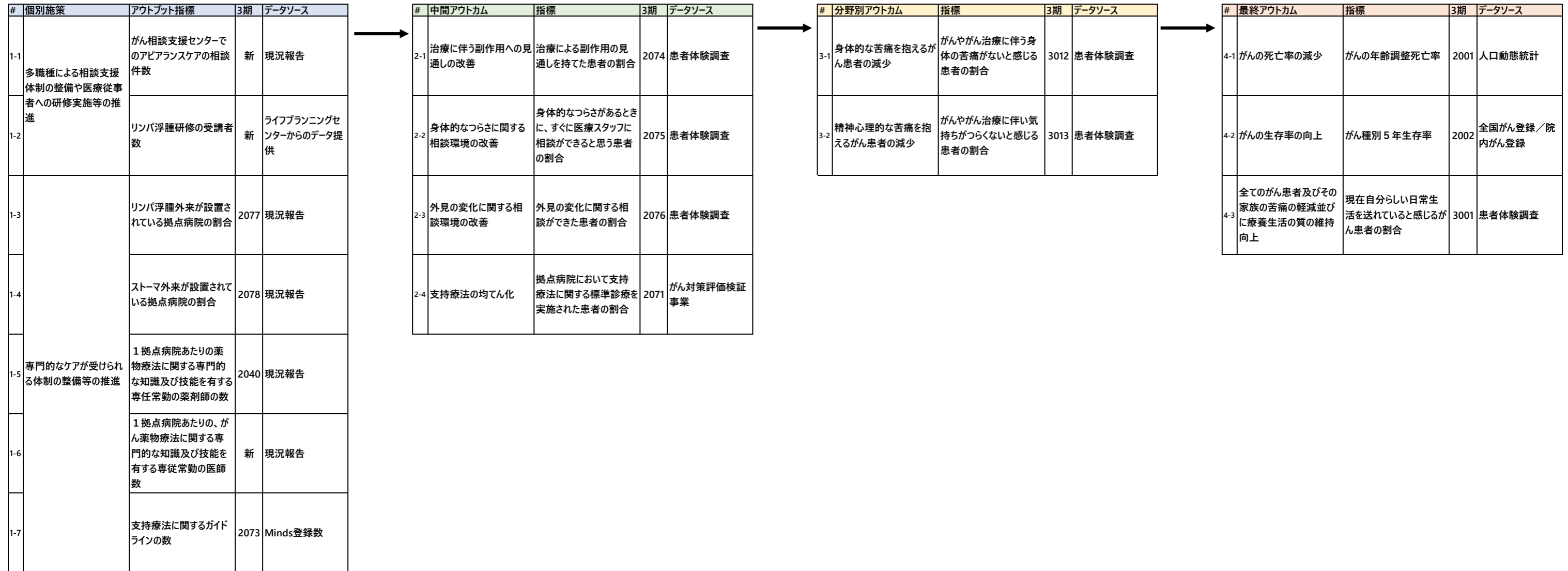


第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#7 がん医療＜がんのリハビリテーションの推進＞



第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#8 がん医療＜支持療法の推進＞

11月30日時点版（未定稿）



第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#9 がん医療＜緩和ケア＞

11月30日時点版（未定稿）

緩和ケアの提供

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-1	個別の状況に応じた適切な対応が、地域の実情に応じて、診断時から一貫して行われる体制の整備	拠点病院の緩和ケアチーム新規診療症例数	新	現況報告
1-2		特定疾患治療管理料 がん患者指導管理料イの算定数	新	検討中（NDB等を活用し研究班で対応予定）
1-3	拠点病院等を中心とした在宅を含む地域における緩和ケア提供体制の整備推進	緩和ケア外来の新規診療患者数（地域の医療機関からの年間新規紹介患者数）	新	現況報告
1-4		1 拠点病院あたりの地域連携推進のための多施設合同会議の開催数	新	現況報告
1-5	拠点病院等による、拠点病院による地域医療従事者も含めた研修の定期開催、専門的な疼痛治療に係る普及啓発及び実施体制の整備	神経ブロックの実施数 L101-神経ブロック(神経破壊剤又は高周波凝固法使用)-腹腔神経叢ブロック(神経破壊剤又は高周波凝固法使用)の件数	新	NDB
1-6		緩和的放射線照射の実施数 M001-3(直線加速器による放射線治療)の2（1以外の場合）の件数	新	NDB
1-7	国民に対する、緩和ケアに関する正しい知識の普及啓発	測定困難であるため指標設定無し	-	-
1-8	入院以外での外来等における緩和ケアの充実についての検討	緩和ケア外来の新規診療症例数	新	現況報告
1-9		緩和ケア外来への、地域の医療機関からの紹介件数	新	現況報告
1-10	緩和ケアに係る実地調査等を定期的かつ継続的に実施するための方策についての研究と検討	方策の検討段階のため、指標設定無し	-	-
1-11	専門的な緩和ケアの質の評価等の方策の研究、緩和ケアの提供状況についての継続把握	指標設定無し（方策の検討段階、及び引き続き実施する取組のため）	-	-
1-12	拠点病院等以外の緩和ケアの充実に向けた提供体制の実態や課題の把握	緩和ケア診療加算の算定回数	-	検討中（NDB等を活用し研究班で対応予定）
1-13	終末期医療の実態等についての研究と質の向上についての検討	検討段階のため指標設定無し（着実に検討を進めること）	-	-

緩和ケア研修会

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-14	医療従事者の緩和ケア研修会の更なる推進とフォローアップ研修等の検討	緩和ケア研修修了者数	3017	がん等における新たな緩和ケア研修等事業

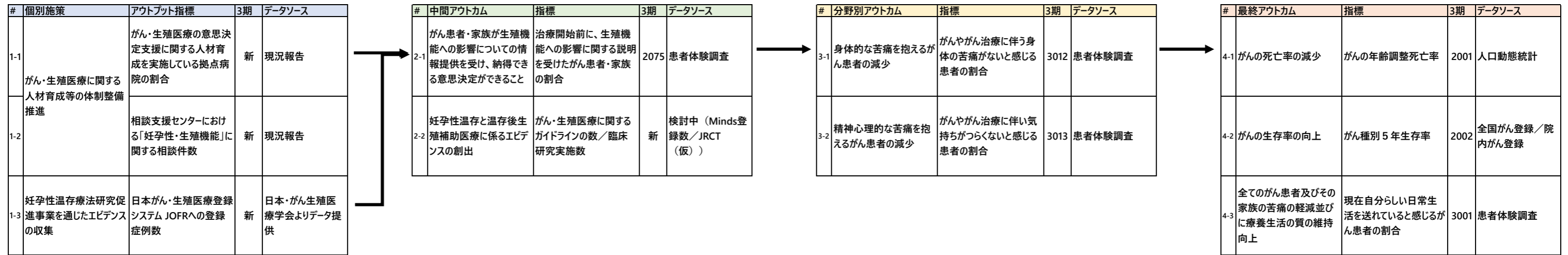
#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-1	苦痛に対する適切なケア・治療の普及（緩和ケアチームの質向上）	医療者はつらい症状にすみやかに対応していたと感じる割合（患者体験・遺族）	新規	患者体験調査・遺族調査
2-2		患者報告アウトカム（PRO）の症状改善率 * 期中に指標を開発予定	新規	検討中（緩和医療学会からのデータ提供）*
2-3	がん患者が、医療者に苦痛の表出ができること	身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談ができると思う患者の割合	2075	患者体験調査
2-4		心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できると感じている患者の割合	3011	患者体験調査
2-5		がん診断～治療開始前に病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3002	患者体験調査
2-6	国民の緩和ケアへの理解度向上	家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	3003	患者体験調査
2-7		医療従事者が耳を傾けてくれたと感じた患者の割合	2006	患者体験調査
2-8	国民の緩和ケアへの理解度向上	国民の緩和ケアに関する認識	3018	世論調査
2-9		国民の医療用麻薬に関する認識	3019	世論調査

* 中間評価に向けてデータを整備予定

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-1	患者・家族のQOL向上（苦痛の緩和）	身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3012	患者体験調査
3-2		精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3013	患者体験調査
3-3		療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3015	遺族調査
3-4		療養生活の最終段階において、精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3016	遺族調査
3-5	緩和ケアの質の向上	在宅で亡くなったがん患者の医療に対する満足度	3033	遺族調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-1	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	患者体験調査

第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#10 がん医療＜妊孕性温存療法の推進＞



希少がん対策

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-1	（希少がんに関する）患者及びその家族等の目線に立ったわかりやすい情報提供の推進	希少がんホットラインへの問い合わせ数	新	国立がん研究センターよりデータ提供
1-2	（希少がんに関する）拠点病院等の役割分担に基づく医療機関間の連携体制の整備	希少がん診療を積極的に受け入れている拠点病院の数と他施設へ紹介する拠点病院の数	新	現況報告
1-3	病理診断に係る希少がん中央機関と拠点病院等との連携体制の整備	中央病理コンサルテーションの数	新	国立がん研究センターよりデータ提供
1-4	（希少がんに関する）存在診断、治療法の開発のための研究推進	希少がんに対する臨床試験を実施している拠点病院数	新	現況報告
1-5	希少がん領域における薬剤アクセスの改善に向けた課題の整理、その対応のための方策の検討	方策の検討段階のため、指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-1	希少がんの患者の診療情報へのアクセス拡充	治療スケジュールの見通しに関する情報を十分得ることができた希少がん患者の割合	新	患者体験調査
2-2	希少がん診療における適切な役割分担の実現	希少がん診療を積極的に受け入れている拠点病院等における治療開始数	新	現況報告＋院内がん登録
2-3	連携の円滑化（速やかな医療の提供）	希少がん患者の初診から診断までの時間、診断から治療開始までの時間	2082	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-1	希少がん患者の高度かつ専門的な医療へのアクセシビリティの向上	希少がんについて、専門的な医療を受けられたと感じているがん患者の割合	2083	患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-1	希少がんの生存率向上	希少がんの5年生存率	2002	全国がん登録／院内がん登録
4-2	希少がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じる希少がん患者の割合	3001	患者体験調査

難治性がん対策

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-6	（難治性がんに関する）患者及びその家族等の目線に立ったわかりやすい情報提供の推進	難治性がんに関するHP等の整備を行っている拠点病院等の数	新	現況報告
1-7	（難治性がんに関する）拠点病院等の役割分担に基づく医療機関間の連携体制の整備	難治性がん診療を積極的に受け入れている拠点病院の数と他施設へ紹介する拠点病院の数	新	現況報告
1-8	（難治性がんに関する）存在診断、治療法の開発のための研究推進	難治性がんに対して臨床試験を行っている拠点病院等の数	新	現況報告
1-9	難治がん領域における薬剤アクセスの改善に向けた課題の整理、その対応のための方策の検討	方策の検討段階のため、指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-4	難治性がん診療における適切な役割分担の実現	難治性がん（※1）診療を積極的に受け入れている拠点病院等における治療開始数	新	現況報告＋院内がん登録

※1. 肺がんを代表例として想定。難治性がんの定義について、今後検討が必要。

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-2	（難治性がんを含む）全国的ながん診療の質の向上・均てん化	がんの診断・治療全体の総合的評価（平均点または評価が高い割合）（※2）	2005	患者体験調査

※2. がん種別で評価が困難なため全体の評価で代替。

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-3	難治性がんの年齢調整死亡率の減少	難治性がん（代表例：膵がん）の年齢調整死亡率	2002	人口動態統計
4-4	難治性がんの生存率向上	難治性がん（代表例：膵がん）の5年生存率	2002	全国がん登録／院内がん登録
4-5	（難治性がんを含む）がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合（※2）	3001	患者体験調査

※2. がん種別で評価が困難なため全体の評価で代替。

第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#12 がん医療＜小児がん・AYA世代のがん対策の推進＞

11月30日時点版（未定稿）

小児がん対策

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-1	小児がん医療提供体制の整備推進	小児がん拠点病院で小児がんの薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の人数	新	現況報告（小児がん）
1-2		小児がん拠点病院で小児の手術に携わる、小児がん手術に関して専門的な知識及び技能を有する医師の人数	新	現況報告（小児がん）
1-3		小児がん拠点病院で小児がんの放射線療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数	新	現況報告（小児がん）
-	小児がん拠点病院等による患者・家族目線に立った分かりやすい情報提供推進	適切な測定指標が無い ため指標なし（※拠点病院では整備指針で必須要件のため100%となる）	-	-
1-4	地域の実情に応じた長期フォローアップのあり方に係る検討の推進	都道府県協議会でフォローアップの連携体制について議論している都道府県数	新	現況報告（小児がん）
1-5		（参考）長期フォローアップ外来を設置している小児がん拠点病院等の施設数	新	現況報告（小児がん）
-	小児がん領域の治験実施（国際共同治験への参加含む）を促進する方策検討、研究開発推進	施策の検討段階のため、指標なし（着実に検討を進めること）	-	-

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-1	小児がん診療の集約化	小児がん拠点病院で治療を受けた小児がん患者の割合	新	現況報告 + 院内がん登録
2-2	小児がん相談支援の拡充	がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分あると思う小児がん患者の割合	新	小児患者体験調査
2-3	長期フォローアップの認知・利用拡充	長期フォローアップについて知っていると回答した小児がん患者の割合	新	小児患者体験調査
2-4	小児がん領域での研究開発の推進	小児がん拠点病院において実施されている治験数	新	現況報告 + JRCT

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-1	小児がん診療の質の向上・均てん化	小児がん患者のがんの診断・治療全般の総合評価（平均点又は評価が高い人の割合）	2083	小児患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-1	小児がん患者の生存率向上	小児がん患者の5年生存率	2091	院内がん登録

AYA世代のがん対策

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-6	地域の実情に応じたAYA世代のがん医療提供体制の整備	多職種からなるAYA支援チームを設置している拠点病院数	新	現況報告

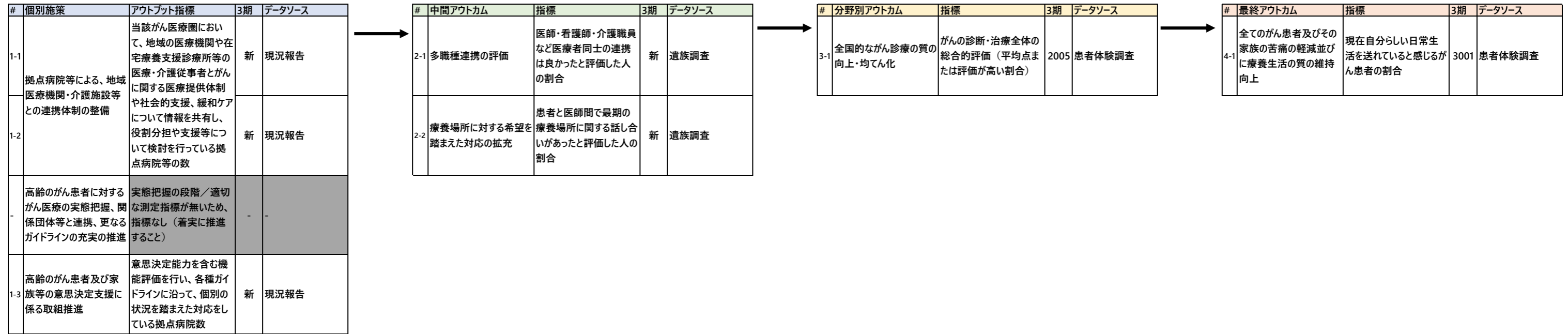
#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-5	AYA患者の状況や希望に応じた支援の拡充	がん診断～治療開始前に、病気や療養生活について相談できたと感じる若年がん患者の割合	3002	患者体験調査
2-6		外見の変化に関する相談ができた若年患者の割合	2076	患者体験調査
2-7		妊よう性に関する説明を受けた若年がん患者の割合 ※再掲	2093	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-2	AYA世代のがん診療の質の向上・均てん化	若者がん患者の診断・治療全体の総合的評価（平均点または評価が高い割合）	2005	患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-2	若年がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じる若年がん患者の割合	3001	患者体験調査

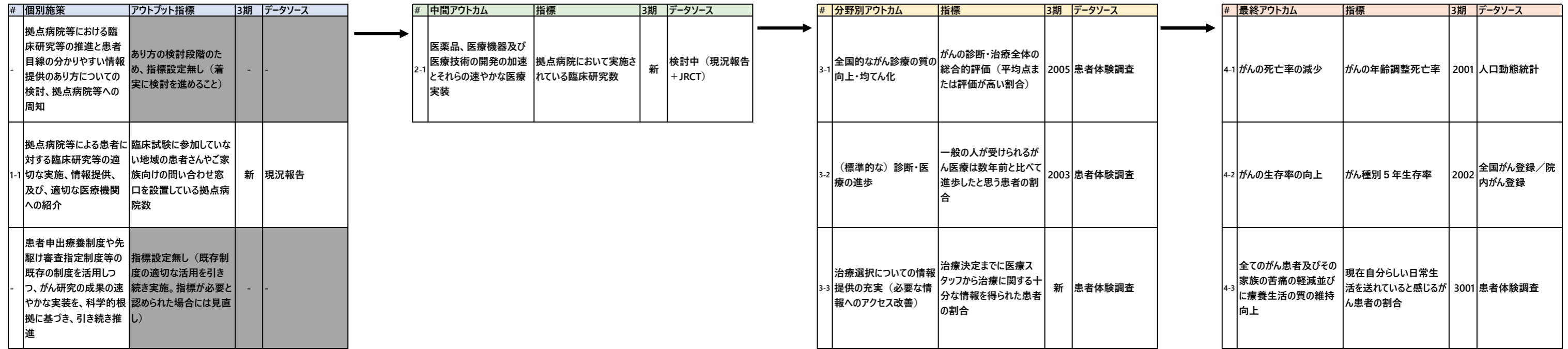
第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#13 がん医療＜高齢者のがん対策の推進＞

11月30日時点版（未定稿）



第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#14 がん医療＜新規医薬品、医療機器及び医療技術の速やかな医療実装＞

11月30日時点版（未定稿）



第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#15 共生＜相談支援・情報提供＞

11月30日時点版（未定稿）

①相談支援について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-1	拠点病院等による、相談支援センターの認知度の継続的改善	がん相談支援センターでの新規相談件数（全国の拠点病院等での総数）	新	現況報告
1-2	関係団体等と連携し、がん相談支援に係る研修等の推進	相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の人数	新	現況報告
1-3		上記の内、フォローアップ研修を受講したがん相談支援センターの相談員の人数	新	現況報告
-	持続可能な相談支援体制のあり方についての検討	あり方の検討段階のため指標設定無し（着実に検討を進めること）	-	-
1-4	拠点病院等と民間団体による相談機関やピア・サポーター等の連携体制の構築／ICTや患者団体、社会的人材リソースの活用方策検討	1拠点病院あたりの、連携している患者団体の数	新	現況報告
1-5	相談支援等に携わる者からピア・サポーター等につなげるための仕組みの検討	1拠点病院あたりの体験を語り合う場の開催数	新	現況報告

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-1	相談支援センターの認知度	がん相談支援センターの認知度（成人＋小児）	3023	患者体験調査
2-2	がん相談支援センターの一般の人の認知度	治療法や病院についてがん相談支援センターで情報入手しようと思う人の割合	新	世論調査
2-3	がんの治療開始前までに相談することができること	がん診断～治療開始前に病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3021	患者体験調査
2-4	ピアサポーターの認知度	ピアサポーターの認知度	3024	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-1	がん患者が、相談を利用し、役だったと思えること	相談支援センターを利用したことのある人が役に立ったがん患者の割合	新	患者体験調査
3-2		ピアサポートを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	新	患者体験調査
3-3	がん患者の家族が、悩みや負担を相談できること	がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分であると回答する者の割合	3022	患者体験調査
3-4				

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-1	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	患者体験調査

②情報提供について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-6	ニーズ・課題の把握を進め情報提供のあり方について検討	あり方の検討段階のため現時点で指標設定無し（着実に検討を進めること）	-	-
1-7	がんに関する正しい情報の提供及び理解の促進の取り組み	がん情報サービスにアクセスした件数	新	国立がん研究センターからのデータ提供
1-8		がん情報サービスにおけるコンテンツ更新数	新	国立がん研究センターからのデータ提供
1-9	障害等によりコミュニケーションに配慮が必要な人や、日本語を母国語としていない人への情報提供を適切に行うことで医療へのアクセスを確保するために、現状及び課題等を把握し、情報提供体制のあり方について検討	がん情報サービスにおける点字資料、音声資料数、資料の更新数	3026	国立がん研究センターからのデータ提供

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-5	がん情報サービスの一般の人の認知度	治療法や病院についてがん相談支援センターで情報入手しようと思う人の割合	新	世論調査（内閣府）*H28年調査で取った実績有り
2-6	探しているがんの情報にたどり着くこと	がん情報サービスにアクセスし、探していた情報にたどり着くことができた人の割合	3025	がん情報サービスによる調査（国立がん研究センターからのデータ提供）
2-7	がんの治療開始前までに相談することができること	がん診断～治療開始前に病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3021	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-5	がん患者が、治療に関する十分な情報を得ることができること	がんの治療を決めるまでの間に、医療スタッフから治療に関する十分な情報が得られたがん患者の割合	3021	患者体験調査 小児患者体験調査
3-6		がん患者は、がんに対して正しい認識を持てること	新たな医療に関する情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思う人の割合	新

第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#16 共生＜社会連携＞

11月30日時点版（未定稿）



① 就労支援について（医療機関側）

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-1	拠点病院等とハローワークとの連携体制の整備	ハローワークと連携した就職支援をおこなっている拠点病院等の数	3044	長期療養者就職支援事業報告
1-2	就労支援に携わる者が、産業医等と連携し、患者・事業主間の治療と仕事の両立に向けた調整と支援できる体制の整備	がん相談支援センターにおける就労に関する相談件数	3045	現況報告
1-3		療養・就労両立支援指導料算定件数* *がんについて	新	NDB
1-4		拠点病院等における就労の専門家による相談会の回数	新	現況報告

① 就労支援について（職場側）

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-5	企業における支援体制等の環境整備の更なる推進、両立支援コーディネーターの活動状況の把握と効果的な配置の検討	両立支援コーディネーター研修修了者数（所属機関別にも算出可）	新	事業報告（労働者健康安全機構）
1-6		長期療養者就職支援事業を活用した就職者数* *がんについて	新	長期療養者就職支援事業報告

② アピアランスについて

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-7	医療従事者を対象とした研修等の開催、相談支援・情報提供のあり方検討	アピアランス支援研修修了者数	新	事業報告
1-8	拠点病院等を中心としたアピアランスケアに係る相談支援・情報提供体制の構築についての検討	拠点病院におけるアピアランスに関する相談件数	新	現況報告

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-1	がん診断された後の仕事の変化	がん診断後も仕事を継続していたがん患者の割合	3042	患者体験調査
2-2	がん診断された後の仕事の変化	退職したがん患者のうち、がん治療の開始前までに退職した者の割合	3043	患者体験調査
2-3	診断時からの情報提供	治療開始前に、就労継続について説明を受けたがん患者の割合	3041	患者体験調査

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-4	両立支援の制度利用	治療と仕事を両立するための社内制度等を利用した患者の割合	3046	患者体験調査
2-5	両立のための職場環境整備	治療と仕事を両立するための勤務上の配慮がなされているがん患者の割合	3047	患者体験調査

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-6	アピアランスケアに関する相談支援の利用	外見の変化に関する相談ができたがん患者の割合（再掲）	3048	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-1	経済・就労関連 PROの向上	治療費用の負担が原因で、がんの治療を変更・断念したがん患者の割合	新	患者体験調査
3-2		金銭的負担が原因で生活に影響があったがん患者の割合	新	患者体験調査
3-3	すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	がん診断～治療開始前に病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3002	患者体験調査
3-4		家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	3003	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-5	患者のQOL向上	身体的・精神的な苦痛により日常生活に支障を来しているがん患者の割合（再掲）	3014	患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-1	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	患者体験調査

第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#17 共生＜サバイバーシップ＞

11月30日時点版（未定稿）

③ がん診断後の自殺対策について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-9	がん患者の診断後の自殺対策について、医療従事者が正しい知識を習得できるよう、研究等の開催・相談支援及び情報提供のあり方について検討	緩和ケア研修修了者数	3017	がん等における新たな緩和ケア研修等事業
1-9		自殺リスクに関する研修を実施した拠点病院の数	新	現況報告
1-10		特定疾患治療管理料がん患者指導管理料イ算定数	新	NDB
1-11		特定疾患治療管理料がん患者指導管理料ロ算定数	新	NDB
-	がん患者の自殺リスクやその背景等について実態把握、必要な対応について検討	実態把握の段階のため、指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-7	気持ちのつらさに対する支援の利用	心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できると感じている患者の割合	3011	患者体験調査
2-8		精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3013	患者体験調査
2-9		療養生活の最終段階において、精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3016	患者体験調査
2-10	身体的なつらさに対する支援の利用	身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談ができると思う患者の割合	2075	患者体験調査
2-11		身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3012	患者体験調査
2-12		療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3015	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-6	患者のQOL向上	がん患者の自殺数	3050	革新的がん自殺研究推進プログラム

④ その他の社会的な問題について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
-	経済的な課題等の把握と利用可能な施策についての周知や課題解決に向けた施策の検討	検討段階のため指標設定無し（着実に検討を進めること）	-	-
1-12	障害等、情報取得や意思疎通に配慮が必要ながん患者に対する配慮	情報取得や意思疎通に配慮が必要な者に対するマニュアルを作成している拠点病院の数	新	現況報告書
1-13	地方公共団体による、がんに対する「偏見」の払拭や、がんに対する国民の正しい理解につなげるための普及啓発	拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数（総数）	新	現況報告書

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-13	がん患者の疎外感の解消	がんと診断されてから周囲に不必要な気を遣われている割合	新	患者体験調査
2-14	がんに対する偏見の払拭	（家族以外の）周囲の人からがんに対する偏見を感じる割合	新	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-7	がんによる社会からの隔離の解消	がんであることを話せる割合	新	世論調査

第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#18 共生＜ライフステージ＞

11月30日時点版（未定稿）

① 小児・AYA世代について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-1	医療従事者と教育関係者との連携、療養中に適切な教育を受けることのできる環境の整備、就学・復学支援等の体制整備	相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん患者の発育及び療養上の相談への対応・支援のうち、教育に関する相談件数	新	現況報告
1-2	成人診療科と連携した切れ目ない支援体制が構築できるよう、医療・支援のあり方について検討	国立がん研究センターによる「がん相談支援センター相談員基礎研修」(1)(2)を受講後、国立成育医療研究センターが実施する「小児がん相談員専門研修」を修了した者の数	新	現況報告
1-3	小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会参加人数	小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会参加人数	新	事業報告
1-4	長期フォローアップ外来を開設している小児がん拠点病院等の数※	長期フォローアップ外来を開設している小児がん拠点病院等の数※	新	現況報告
1-5	相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん患者に対する就労に関する相談件数	相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん患者に対する就労に関する相談件数	新	現況報告
1-6	小児がん拠点病院が連携している、小児がんに関する患者団体の数	小児がん拠点病院が連携している、小児がんに関する患者団体の数	新	現況報告
1-7	診断時からの緩和ケア提供体制や在宅療養環境等の体制整備について関係省庁と連携し検討	あり方の検討の段階のため、指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-

※小児がん拠点病院と、小児がん連携病院の類型1を分母とする想定

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-1	教育支援に関する医療スタッフからの説明	治療開始前に教育の支援等について医療スタッフから話があったと回答した人の割合	3052	小児体験調査
2-2	就学支援制度の利用	がん治療のため転校・休学・退学したと回答した人のうち、患者の治療中に何らかの就学支援制度を利用したと回答した人の割合	新	小児体験調査
2-3	がん治療と教育の両立	治療中に学校や教育関係者から治療と教育の両立に関する支援を受けた家族の割合	3053	小児体験調査
2-4	長期フォローアップの認知度	長期フォローアップについて知っていると感じた人の割合	新	小児体験調査
2-5	医療者側からの就労支援（説明）の徹底	治療開始前に就労の継続について医療スタッフから話があった人の割合	新	患者体験調査＜若年がん患者のみ＞
2-6	つらい症状への速やかな対応	つらい症状には速やかに対応してくれたと思うと回答した人の割合	新	小児体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-1	家族への支援・サービス・場所	家族の悩みや負担を相談出来る支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	3054	患者体験調査
3-2	就学の継続	がん治療前に就学していた者のうち、「がん治療のために患者が転校・休学・退学したと回答した人」以外の割合	新	小児体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-1	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	小児体験調査 患者体験調査：全体

② 高齢者について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-8	拠点病院等による、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討を行っている拠点病院等の数	地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討を行っている拠点病院等の数	新	現況報告 ※必須要件（再掲）
1-9	介護支援等連携指導料（B005-1-2）の算定回数（がん患者に限定）	介護支援等連携指導料（B005-1-2）の算定回数（がん患者に限定）	新	NDB
1-10	退院時共同指導料1（B004）の算定回数（がん患者に限定）	退院時共同指導料1（B004）の算定回数（がん患者に限定）	3017	NDB
-	患者の健康管理の方法、地域における療養のあり方、再発・二次がん・併存疾患のフォローアップ体制等について検討	あり方・施策の検討段階のため、指標無し（着実に検討を進めること）	-	-
1-11	高齢のがん患者の人生の最終段階における療養場所等の選択に関する意思決定を支援するための方策について検討	意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしている拠点病院数	新	現況報告 ※必須要件（再掲）

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-7	家族の介護負担感	介護をしたことで、全体的に負担感が大きかった	新	遺族調査のサブグループ解析（仮）
2-8	死亡場所で患者が受けた医療の構造・プロセス	医師・看護師・介護職員など医療者どうしの連携はよかった	新	遺族調査のサブグループ解析（仮）
2-9	最後の療養場所の希望や医療に関する話し合いがあった	患者と医師間で最期の療養場所に関する話し合いがあった	新	遺族調査のサブグループ解析（仮）

※サブグループ解析は、遺族調査の結果を、75歳以上に限定して解析することを想定

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-3	死亡前1ヶ月間の患者の療養生活の質	望んだ場所で過ごせたがん患者の割合	新	遺族調査のサブグループ解析（仮）
3-4	死亡場所で受けた医療に対する全般的満足度＞在宅かつ高齢者	在宅で亡くなったがん患者の医療に対する満足度	新	遺族調査のサブグループ解析（仮）
3-5	死亡前1ヶ月間の患者の療養生活の質	人生をまっとうしたと感じていた	新	遺族調査のサブグループ解析（仮）

第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#19 基盤＜がん研究の推進＞

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース	#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
1-1	がん研究の更なる充実に に向けた戦略の見直し	戦略を検討するものである ので指標設定無し ※ 次期「がん研究10か年戦 略」を令和5年度中に策 定	-	-	2-1	がん研究論文数、引用 数の増加	CSO(Common Scientific Outline)分類 別・部位別論文数、引 用数	4014	論文データベース Dimensions
1-2	AMEDによる、有望な基 礎研究の成果の源泉・ 医薬品・医療機器の開 発と企業導出を速やか に行うための取組継続推進	「革新的がん医療実用化 研究事業」事後評価	新	AMED	2-2		日本発の治療薬の創出 に向けて導出された治験 の数	4011	JCRP 現況報告
1-3	「全ゲノム解析等実行計 画2022」の着実な推進	日本臨床研究実施計 画・研究概要公開シス テム（JRCT）に登録され たゲノム変異をもとづく がんを対象とした臨床研究 の数	新	JRCT、AMED	2-3	基礎的研究成果として日 常診療への導入を目指し て推進される医療技術数 の増加	日本発の診断薬の創出 に向けて導出された治験 の数（JCRP 現況報 告）	4012	JCRP 現況報告
1-4		日本臨床研究実施計 画・研究概要公開シス テム（JRCT）に登録され たジャパンキヤンサーリサ ーチプロジェクトの研究数	新	JRCT、AMED	2-4		日本発の医療機器の創 出に向けて導出された治 験の数（JCRP 現況 報告）	4013	JCRP 現況報告
1-5	本基本計画における各 分野の政策課題の解決 に資する研究推進	厚労科研の採択課題に おける事後評価の平均	新	厚労省					
1-6		「がん政策研究事業」成 果に関する評価	新	厚労省					

#20 基盤＜人材育成の強化＞

11月30日時点版（未定稿）

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース	#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
1-1	がん医療の現場で顕在 化している課題に対応す る専門的な人材の育成 の推進	がん専門医療人材（が んプロフェッショナル）養 成プラン「次世代のがん プロフェッショナル養成 プラン」事業評価	新	文科省からのデー タ提供	2-1	必要な知識を身に着 けた専門的な人材の増 加	第4期がんプロで支援さ れたがん専門医療人材の 人数	新	事業における取組 状況調査
-	高齢化や人口減少等の 背景を踏まえ、人材の効 率的な活用等の観点を含 めた専門的な人材の 育成のあり方の検討	施策の検討段階のため、 指標設定無し（着実に 検討を進めること）			2-2	専門的な人材の適正配置	拠点病院における専門 人材の配置状況に係る 各種指標（※各分野で 設定した人材の指標。列 挙は割愛）	-	-
1-2		がんゲノム医療コー ディネーター研修会参加 人数	4022	がんのゲノム医療従 事者研修事業					
1-3		がんリハビリテーション 研修プログラム終了して いる医療従事者の人数（ 医療の再掲）	2063	ライフプランニングセ ンターからのデータ提 供					
1-4	がん医療の高度化が進む 中での拠点病院等を中 心とした専門的な人材の 育成及び配置	小児・AYA世代のがん の長期フォローアップに 関する研修会参加人数	4023	小児・AYA世代の 長期フォローアップ体 制整備事業					
1-5		緩和ケア研修修了者数	4021	がん等における新た な緩和ケア研修等 事業					
1-6		緩和ケアに特化した講座 を設置している大学の数	4024	文科省からのデー タ提供					

第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#21 基盤〈がん教育・知識〉

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース	#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
1-1	児童生徒の発達段階に応じたがん教育の推進				2-1		がんは、誰もがかかる可能性のある病気である「そう思う」と回答した割合	新	がん教育総合支援事業事業成果報告書
1-2	都道府県及び市町村における、がん教育が実施されるよう必要な支援の実施	外部講師を活用してがん教育を実施した学校の割合	4031	文科省からのデータ提供	2-2	国民ががん予防や早期発見の重要性を認識し、がんを正しく理解し向き合う	がん検診を受けられる年齢になったら検診を受けようと思うと回答した割合	新	がん教育総合支援事業事業成果報告書
1-3	国及び地方公共団体、拠点病院等を中心とした医療機関による、国民に対するがんに関する正しい知識の普及啓発（患者や家族等の関係団体等の協力）（啓発資料のデジタル化や対象者に応じた周知方法の工夫等の効果的な手法活用）	がん情報サービスに含まれる項目数	新	国立がん研究センターからのデータ提供	2-3		がんの新しい治療法に関する情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思う人の割合	新	検討中（世論調査）
1-4		1拠点病院あたりの、連携している患者団体の数	新	現況報告					
1-5	事業主や医療保険者による、雇用者や被保険者・被扶養者に対する正しいがん知識習得の支援	がん対策推進企業アクションの参加企業数	4033	厚生労働省					

#22 基盤〈がん登録の利活用推進〉

11月30日時点版（未定稿）

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース	#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
1-1	質の高い情報収集に資する精度管理への継続取組	全国がん登録の精度指標としてのMI比・%DCO	2111	全国がん登録	2-1	全国がん登録/院内がん登録の利用の推進	利用件数（総数・年あたり）	新	厚生労働省/国立がん研究センター
1-2	現行制度における課題の整理を踏まえたがん登録推進法等の規定の整備を含めた見直しの検討、デジタル化に関する他の取組とも連携し、有用な分析が可能となる方策の検討	指標設定無し（着実に検討を推進すること）							

第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#23 基盤＜患者・市民参画推進＞ #24 基盤＜デジタル化＞

11月30日時点版（未定稿）

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-1	国及び都道府県による、基本計画及び「都道府県がん対策推進計画」の策定過程における性別、世代、がん種等を考慮し、多様ながん患者等の参画推進	都道府県がん対策推進計画の策定過程におけるがん患者を代表する者の参加割合（参考：性別、年代等の多様性（仮））	4001	厚生労働省
1-2	患者・市民参画に関する研究成果を踏まえた、がん患者及びがん経験者の参画取組の横展開 参画する患者・市民への啓発・育成	厚生労働省科学研究を基に開催された研修会の開催回数	新	厚労科研班からのデータ提供
1-3	医療従事者や関係学会に対する啓発等への取組	年度中に都道府県協議会の参加者について、がん患者・経験者やその家族や患者団体などの意見を代表する者の参加があった、都道府県の数	新	現況報告



#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-1	がん対策の重要性を認識し、がん医療について正しい理解を得、医療の向上に向け自らも協力する国民（がん患者含む）の割合増加	がん医療に対する国民の向き方（自らも協力する必要がある（自分ごと）と理解する人の割合）（仮）	新	検討中（世論調査（仮））
2-2	医療従事者の意識向上	関係学会において患者・市民参画を知っていると回答した医療者の割合	新	日本癌治療学会

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-1	デジタル技術の活用による医療のデータ化とその利活用の推進についての検討	個別施策を検討する段階のため、指標設定無し（着実に検討を進めること）	-	-
1-2	安心安全なオンライン診療の提供、地方公共団体や医療機関における会議や相談支援のオンライン化に向けた取組の推進	患者とその家族が利用可能なインターネット環境を整備している拠点病院等の数（or割合）	新	現況報告
1-3	セカンドオピニオンを提示する場合は、必要に応じてオンラインでの相談を受け付けることができる体制を確保している拠点病院等の数（or割合）	セカンドオピニオンを提示する場合は、必要に応じてオンラインでの相談を受け付けることができる体制を確保している拠点病院等の数（or割合）	新	現況報告
1-4	集学的治療等の内容や治療前後の生活における注意点等に関する、冊子や視覚教材等がオンラインでも確認できる拠点病院等の数（or割合）	集学的治療等の内容や治療前後の生活における注意点等に関する、冊子や視覚教材等がオンラインでも確認できる拠点病院等の数（or割合）	新	現況報告



#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-1	（デジタルにより）がん患者・家族を含む国民が、適切な情報・医療資源・支援にアクセスしやすくなる	適切ながん医療へのアクセスや支援の利用過程において、デジタル技術の活用が役立った人の割合（仮）	新	検討中（患者体験調査）